令和3年度　学校経営計画・学校評価シート

高知県立高知若草特別支援学校（本校）

《高知県の教育の基本理念》	(1)学ぶ意欲にあふれ、心豊かでたくましく夢に向かって羽ばたく子どもたち (2)郷土への愛着と誇りを持ち、高い志を掲げ、日本や高知の未来を切り拓く人材	学校像	○児童生徒が自己実現を達成できる学校 ○保護者が信頼と教育を託できる教育を行う学校 ○地域になくてはならない存在として愛される学校 ○教職員が仕事に誇りをもち、やりがいを感じる学校	目指すべき教職員像	(1)学校教育目標,教育課程,日々の授業のつながりを意識したカリキュラムマネジメントサイクルの確立による児童生徒一人一人の実態に応じた教育課程の編成 (2)卒業後の自立と社会参加を見据えた教育の充実と豊かなりの育成 (3)教員の専門性の向上と指導力の育成 (4)児童生徒の命と人権を守る安心安全な学校づくりの推進 (5)特別支援教育のセンターとしての支援機能や情報発信,保護者,関係機関等との連携による開かれた学校づくりの推進 (6)学校教育目標の達成をめざしやりがい,働きがいのある学校組織の運営と働き方改革の促進
《取組の方向性》	<第3期高知県教育振興基本計画　基本方針と横断的取組> ①チーム学校の推進 ②厳しい環境にあるネグレクトへの支援や子ども の多様性に応じた教育の充実 ③デジタル社会に向けた教育の推進 ④地域との連携,協働 ⑤学校における働き方改革の推進	目指す児童生徒像	(知)自ら学ぶ (学)人間関係を築き,協調性を身に付ける児童生徒 (社)社会生活に必要な知識や技能,態度を身に着けた児童生徒 (感)意欲,協調,協力 (心)人や環境と積極的に関わり,自立し社会参加しようとする意欲を持った児童生徒 (お)互いを認め合い,思いやりの気持ちで協調,協力しようとする児童生徒 (体)健康,体力 ○卒業後も一人一人の持てる力を発揮し,将来にわたって豊かに生きるため,健康や体力,基本的生活習慣を身に着けた児童生徒	目指すべき取組の方向性	

《重点取組項目》

（評価　A:目標を十分に達成　B:ほぼ目標を達成　C:やや不十分　D:改善を要する）

項目	取組ねらい【P】	現状と目標【評価指標】	具体的な取組内容【D】	中間評価【C】	中間評価後の取組内容【P-D】	年度末評価【C】	学校関係者評価	見直しのポイント【A】
1　教育課程の改善	主体的,対話的で深い学びの視点での授業改善と学習評価を教育課程の改善につなげ,一人一人に応じた教育課程を編成する。【中計画の年目】 ①個別の指導計画及び学習評価の充実(実態把握,2つの目標設定,3観点での学習評価) ②個別の指導計画と随時見直しを行う教育課程の編成 ③校内委員会及び校内ケース委員会を実施し,教育課程や年度計画案の作成,支援のための学び,「目標内容評価表」の作成 ③授業づくりのPDCAサイクルを徹底し,主対話の視点での授業改善を進める。	【目標】 ①令和元年度に全校をグループ別研究日の設定,計画的な実施(教務,研究) ②個別の指導計画の目標設定から学習評価までのPDCAサイクルを推進(教務) ,資質,能力の3つの柱による目標設定及び観点別評価の推進(学習指導要領を踏まえた教師力,単元計画案の作成の伝達等) 校務支援システムの活用 学習(教務等)簿類等(各教科の評価規準,評価計画の作成) ③本年度の教育課程の改善,充実につなげるための教育課程制度(ミーティングの活用(教務) ③キャリア発達段階の見直し及び各教科等との関連検討(教務,研究) ③②公教科指導の充実のための授業研究(国語,算数,数学に加えて他教科でも実施)(研究) ,研究グループを組織し,単元計画案を用いた公開授業及び研究協議を開催に実施 ,実態把握や授業づくりのための研修の実施 ,授業実践報告のシートを単元計画案等を校内実践事例Bankとして収集,蓄積校中心に事例集の作成(研究,教務) ,研究グループ学習指導要領を踏まえた「目標内容評価表」の作成を進める。(研究) ①②本校分校でのカリマネ委員会の開催と教育課程研究集会の実施(研究,教務) ,校内カリマネ委員会の実施(教務,自立,学部主事,主幹教諭,管理職) ③相談支援依頼は教務,研究部員等の授業づくりサポートをさらに活用推進する。(相談支援,研究)	C	①重度のお子どもの目標の書き分けは,引き続きクラス,学部,授業研等で話めることはこは校内マネでも実践例を豊富する(全体への強さ,方法工夫する)。 キャリア発達段階表の各教科等との関連検討を本年度行う。各学部の関係者が主事会で行う。 ②学期の授業研を通じて,あらためて本校の主体的な学び,資質・能力を育成するための観点別学習状況評価の実践を進める。 ③公開授業及び研究協議では,目標達成のための主対話の視点や,実態に応じたプリントICT機器の活用等,支援方法について,継続して検討する。	【教育課程,授業について(第子ポス1　年間ス　教00.1) ,単元計画案,目標,評価,主対話について(第年100　第100　教00.2) ①個別の指導計画を基に,実態把握から目標や通切な内容をクラス内で確認し,統一した評価をすることが通ている。重度のお子どもについても,3つの柱での目標設定が可能になり,評価はしやすくなった。中期型だの学習評価から評価への手続きを中した。 ■重度のお子どもについて,3つに書き分けることが難しい場合がある。キャリア発達段階表から各教科等との関連検討は今後重ずるる必要がある。 ②単元計画案,目標内容評価表 ③年次研者を中心に年間指導計画に基づいた単元計画案を作成している。研究及び教務部長が各クラスに単元計画案作成の意義を伝えるなど,授業づくりのサポートを行った。 ■単元計画案に記入する要素が多く作成に時間がかかる。目標内容評価表の簡易はさら後者すする必要がある。 ③主対話の視点での授業改善 ③単元計画案作成時に主対話の視点を意識して取り入れている。 ■中区研者は外は本校の主対話シートの視点での授業づくりが十分できない。	【教育課程,授業について(第子ポス1　年間ス　教00.1) ,単元計画案,目標,評価,主対話について(第年100　第100　教00.2) ①個別の指導計画を基に,実態把握から目標や通切な内容をクラス内で確認し,統一した評価をすることが通ている。重度のお子どもについて,3つの柱での目標設定が可能になり,評価はしやすくなった。中期型だの学習評価から評価への手続きを中した。 ■重度のお子どもについて,3つに書き分けることが難しい場合がある。キャリア発達段階表から各教科等との関連検討は今後重ずるる必要がある。 ②学期の授業研を通じて,あらためて本校の主体的な学び,資質・能力を育成するための観点別学習状況評価の実践を進める。 ③公開授業及び研究協議では,目標達成のための主対話の視点や,実態に応じたプリントICT機器の活用等,支援方法について,継続して検討する。 ③①単元計画案作成時に主対話の視点を意識して取り入れた,主対話の視点で話し合い,PDCAサイクルを回したかできた。目標型は教科により,普段の授業や単元テスト等で,主対話を意識した授業展開や問いを設定し,思考の深まりや発言の豊かさにつなげることができた。 ■主対話シートが新転入教員には浸透していない→【全体周知及びクラス等での授業づくり・授業改善での活用が必要。】②公開授業後の授業改善や単元後の観点別学習状況評価,次の単元への つながり等の協議しできるように,授業改善を効果的・継続的に行える仕組みづくりが必要である。	B+	・授業のPDCAを回すことと併せて,個々の特性に合った授業のデータベース化,蓄積,共有,再活用するとよいのではないか。 ・アンケートから,授業が分かるという児童生徒が9割,保護者の肯定的評価は95%。子どもが分からず授業を受け,力をつけていると保護者が思えるようのはA上評価にしたい気持ち。B+でもよい。	【ねらい】教務,対話的で深い学びの視点での授業改善と学習評価を教育課程の改善につなげ,一人一人に応じた教育課程を編成する。【中計画の年目】 【目標】①教育課程の評価・改善を行うため,日々,単元計画案等を作成・活用した授業を実施するとともに,単元を通じての学習評価を中間指導計画の改善・充実に活かす。また,年度末を見据えたキャリア教育にもつなげる。 ②単元の授業づくりのPDCAサイクルを徹底することで,指導と評価の一体化を推解するとともに,主対話の視点での授業改善を進める。 ③若草初校で教育課程実施上の課題を共有し,改善のための検討を行う。
2①自立活動の指導の充実	教科学習を後ろ支えする自立活動の指導内容や指導の充実【中計画の2年目】 ①一人一人の児童生徒の「流れ図」の作成または見直し ②自立活動の指導と教科の指導の関連を明解し,適切な指導場面を設定する。	【目標】 ①②自立活動に関する基礎的な理解と教科指導との関連について理解を深める。 ①令和元年度の自立活動の流れ図(指導内容設定)を学期から準備を始め,3月に評価,見直しをする。 ②関係部署が連携し,自立活動と教科の指導内容について必要な整理を行う。 ※目標内容評価表の作成を通じて,教科で扱う内容と自立活動の配慮事項などの区分けを明確にしていく。	①自立活動の基本的な捉え,流れ図の作成に関する研修会の実施 ①1学期から準備を始め,夏季休業中に流れ図を全児童生徒に作成し,個別の指導計画に反映する。 ,流れ図作成や見直しのPDCAサイクルを個別の指導計画の作成,活用とリンクさせる。 ②教科等の学習指導案の指導欄や単元計画案,略案に,自立活動の指導目標や内容との関連を記載し,活用する。(理解,意識を高めるために番号ではなく言葉で書きとむとよりにする ※各教師,身体の動きの研修について実施方法等を検討し,本校教員の専門性の向上とする。	C	①「流れ図」の作成,見直し ○流れ図作成において,先生方の行動の要因や支援について共通認識を図ることができた。 ■学期指導案,単元計画案などに紐付け分に リンクさせることができていないので,今後反映させていく。改訂をしたことに目標などの定期的な見直しをする。 ②自立活動と教科の指導の関連理解 ○教科と自立活動の関連性について理解が深まり,指導のねらいがより明確になった。 ■作成しただけにならないように,クラス会や中で自立活動の目標や内容,場面を振り返っていく。教科の指導との関連をより深く押さえた計画を必要。 ※専門性向上 ,食事支援や身体の動き支援などが自立活動の研修を通して必要なことが理解でき,専門性の維持向上に役立っている。	B	①作成しただけにならないように,クラス会や自立活動の目標や内容,場面を12月中に振り返り修正する。 ②学期以降の授業づくりに反映させるため,学習指導案,単元計画案に「自立活動の配慮」を記載する。	【現状と目標,評価指標】 ①「流れ図」の作成,見直し ○流れ図作成において,先生方の行動の要因や支援について共通認識を図ることができた。 ■学期指導案,単元計画案などに紐付け分に リンクさせることができていない。改訂をしたことに目標などの定期的な見直しをする。 ②自立活動と教科の指導の関連理解 ○教科と自立活動の関連性について理解が深まり,指導のねらいがより明確になった。 ■作成しただけにならないように,クラス会や中で自立活動の目標や内容,場面を振り返っていく。教科の指導との関連をより深く押さえた計画を必要。 ※専門性向上 ,食事支援や身体の動き支援などが自立活動の研修を通して必要なことが理解でき,専門性の維持向上に役立っている。	B+	・子供のことについて先生と上く話しており,1年間の成長を感じている。 ・先生方,関わってくれてできることが増えた。小さいことも一つ一つ増えている。特に何も言うことはないくらい満足している。 ・児童生徒のマイナス評価が12%だが,これについては問題点を把握し,改善するよう望む。	【ねらい】教科学習を後ろ支えする自立活動の指導の充実を図る。 【目標】 ①流れ図等の作成または見直しを通して,教科学習を後ろ支えする自立活動の配慮について理解を深め,自立活動の指導を見直す(教育課程の改善につなげる)。 ②肢体不自由教育における専門性の維持向上。 ※コロナ禍でも,できる方法を検討し,食事指導,身体の動きの研修を実施し,専門性の維持向上に役立てる。
2②ICT活用の推進	①GIGAスクール構想による一人一台PCの配置に伴い,全ての教員がgoogle協働学習ツールG suite for Education をインストールして活用できるようになる。 (教員の基礎的な知識,技能の習得) ②令和3年度に入った場合に児童生徒が,通級用ツール等で一人一台のPCの活用できるように,,某株小新ネットに校内無線を行う。 ②令和3年度に入った場合の児童生徒の学習指導や支援にICT活用ができる環境を作る。	【目標】 ①全ての教員がgoogle協働学習ツールG suite for Education をインストールして活用できるようになる。 ②児童生徒が活用するための簡単な使い方マニュアルや管理のルールを作成 ①可能なクラスにおいては,児童生徒の一人1台パソコン に,google協働学習ツールG suite for Education の利用できるように設定し,授業や宿題等に利活用を始める。 ※ICT支援員を活用しながら進める	C	①教員の基礎的な知識,技能の習得 ○教員により差はあるが,会議や授業でクラスルームやジャムボードを活用することで,知識,技能を習得している。 ②児童生徒の学習指導へのICT活用推奨作り ○授業の中でも活用しジャムボード,ドキュメント,シート,スライドなどは生徒も活用できた。クラスのClassroomを作成し,夏季休業中,自宅の様子等を保護者も一緒に投稿する等して,活用することができた。VOCA等スイッチ教材やiPadも活用した実践を行った。 ■児童生徒の実態,学習状況,ねらいにより,1人1台端末の活用に至っていない。(難しい)クラスはある。	②児童生徒の学習指導へのICT活用推奨作りをする中で, ①教員の基礎的な知識,技能の習得を目指す。 ,通常は休登業へ戻すが,各クラスに最低1台は常に置き,休み時間や授業中にできることから活用を始める。 ,可能クラスは家庭学習でも活用し,休業だったが,場合に編える。	B	*Google Works for Education*の知識,技能の習得について(教00.2) *授業でのスイッチやiPad,パソコンの活用について(第年100　保4.3　教27.6)* ①①情報ICT担当係の自主研が継続的に行われ,またGIGAスクールサポーター(年間31回来校支援,子定含む)ICT支援員のサポートにより,会議や授業,交流及び共同学習,総合神間第に(Google)の各アプリを活用した教員は知識,技能を習得している。常宿舎の行事や避難訓練,保護者会等でもICT機器を使う機会が増えている。 ■知識,技能の習得状況は,教員,クラスにより差がある。教職員の転出入によって理解の水準が下がらないように,また各種アプリに対応できるように,継続して研修を行う必要がある。 ②クラスにより,ジャムボード,ドキュメント,シート,スライド等,生徒も活用できたした。(活用の具体例…Classroomを作成し,授業で活用した り,日常の様子等を(保護者も一緒に)投稿したり,また,宿舎内一神り帰って課題をした。OKJフーク会ゥ=連絡実習を実施した。コロナ禍で時間授業ができない時に,家庭の協力を得て,クロームブックを活用して授業を継続した。 ■YouTubeの利用や音楽鑑賞等には取り組んだがICT活用のアイデアが多く浮かばなかった。研修等を通してさんでいくとともに,クロームブックよりもVOCA等スイッチ教材やiPadが有効な児童生徒には,適切なICT機器を選択して活用していく必要がある。H26に作成した出P&J等の事例集も参考にする。スイッチや周辺機器の故障対応や位置確など整備の必要。	・重度の子どもさんへの活用が難しかったということが,子どもが活用していなくても,先生方が使えないのは国のせで,否定的な評価が多かったと見受けられる。 ・先生方が使えないのは問題があるのかもしれないが,個々によって難しさが違う分野だと思うので仕方がないのかなと思う。それゆえに目標に届かなかったということだと思うので,マイナス評価にしなくてもいいのなと思う。 ・使わなくてはならないときに,ICT支援員等人材活用によるバックアップができている。 ・重度の生徒のICT活用では,卒後マンツーではない生活で楽しい時間を過ごせるよう,一人一人の楽しみ方を見付けてもらいたい。卒後過ごす寮設等との連携も大事。	B	・重度の子どもさんへの活用が難しかったということが,子どもが活用していなくても,先生方が使えないのは国のせで,否定的な評価が多かったと見受けられる。 ・先生方が使えないのは問題があるのかもしれないが,個々によって難しさが違う分野だと思うので仕方がないのかなと思う。それゆえに目標に届かなかったということだと思うので,マイナス評価にしなくてもいいのなと思う。 ・使わなくてはならないときに,ICT支援員等人材活用によるバックアップができている。 ・重度の生徒のICT活用では,卒後マンツーでない生活で楽しい時間を過ごせるよう,一人一人の楽しみ方を見付けてもらいたい。卒後過ごす寮設等との連携も大事。	【ねらい】【児童生徒の目標達成のための手立てとしてICT機器(Chromebook,iPad,VOCA等)の利活用を推進する。 【目標】 ①全ての教員が児童生徒の実態に応じたICT機器(Chromebook,iPad,VOCA等)を授業の中で利活用できるようになる。 ②全ての教員がGoogle Works for Educationを校務で利活用できるようになる。
働き方改革	子どもに向き合う時間,自分自身を高める時間の確保と一人一人のカが生かせる職場づくりを行う。 ①効果的,効率的な計画的な業務による時間の確保と,一人一人のカが生かせる職場づくりを行う。 ②効率的,効率的で計画的な業務により,見通しをもった仕事の仕方につながるよう教職員一人ひとりに関する意識改革を行う。 ③本校,分校で共同,協働してできる業務を検討し,各校の教育活動の交流による質の向上を図るとともに,業務の効率化を図る。	【目標】 ①効果的,効率的な業務のための組織体制や業務分担の見直し ①部長,クラス長の役割を明らかにし,分業前や学級の経営力を高める。 ①人材育成,専門性の向上により,学力と力量とを伸ぶる。 ②働きやすく安心,安全な職場環境を実現する。 ③本校,分校で共同,協働した教育活動や業務の処理を検討する。	①時与時間短縮のための工夫(学習支援員の活用,マイナス人員でできる校業の検証等) ①進捗管理シートに年間計画を記入し,分業業務や進捗状況の見えるかを図る。 ①主事と管理職とのミーティング(主事会)とクラス長会の実施 ①職員室,教材室,教室の整理整頓と維持 ①実践事例や教材等の共有の促進 ,単元計画案,指導案,目標内容評価表(教務,研究) ,教材教具(教務) ,共有フォルダ(情報ICT,各部長等) ①家庭連絡のためのICT活用の方法の検討,実施 ①ノー残業デイの実施 ②管理職とやカリマネ委員会等を通じて本校,分校の取組を共有し,合同でできることや統一できるものについて検討し,できることから取り組む。	C	①計画的な業務,見通しをもった仕事の仕方等,働き方に関する意識改革 ○働き方改革の意識そも,工夫,たが付事に挑したりする教職員が増ている。具体的には,マイナス人員で授業を行う工夫,学級を組えた補欠対応,支援員の活用,会議時了時間の厳守,空き時間の見える化等を行った。昨年に比べて時与時間短縮,教材研究のための空き時間確保につながった。 ■業務の偏りの平準化が難しい。 ②校で共同できる業務の検討,各校の教育活動の交流による質の向上 ○期間の指導計画の計画,実施,評価から教育課程改善へつながる方向性を校で合わせるために1校分ずつを継続している。その途中段階として教育課程研ー協議たけ,,,2学期に実施するポッチャ交流,作品交流の打合せをそれぞれ設定ポートをだけはメッセージ でけい,準備を進めている。 ■校分ポケット本これ学校経営計画に合って同じ方向性で教育課程改善に取り組むために,情報共有を就,ているが,共通理解が深まりは,共通理解が深まりは今後も協議を続けて必要がある。	①計画的に業務に取り組み,一見案ずに仕は定外品勤が採用であるが,どうしても の場合は,無制に管理職は相談し,当月内別日の設定を検討する。 全員が声を掛け合って授業関係時間,終了時刻を厳守する。 ,単元計画案や連絡管理ノートなどは,実際に書いて授業や業務に活かるように,取組の効果や意義を理解する。 ②校分ケ本において,教育課程研を学期が公開授業,研究協議及び教育課程改善につなで協議をけ,ポッチャ交流をけモートで,作品交流は三回開方式で実施する。	B	*・教材研究の時間確保について(第00.3 (参考　P2:65.3　P元:55.3)* ①①昨年に比べて時与時間短縮,教材研究のための空き時間確保ができた。(要因:学習支援員の活用が進んだこと,各担当業務の整忙期に合わせてクラス内業務のバランスを考えたが,補欠対応など,空き時間確保に努めたこと,学部を超えて補欠対応をしたこと,ノーサンドミーム活用による印刷配付の時間を削減したこと等。) ■主指導の分担や,学習支援員の活用と連携による効果的な指導について工夫を継続していく。一つのクラスに年次研者はできるだけ重ならないようにする。今後業務の負担軽減のために授業支援員の配置を希望する。マンデーンマンでの指導は当分ではなく,卒業後の生活をイメージしてマイナス人員でできることを探していく視点も必要。業務の偏りの平準化と,ちらに チームワークの上,協力し合える教職員集団づくりに取り組んでいく必要がある。 ②③校分ケ本は,校分ケ校経営計画に合って同じ方向性で教育課程改善に取り組むために,情報共有を就続していく。国立分校を含めて校でのポッチャ交流会及び作品交流会を校例分間して実施し,交流ができた。作品交流会では,児童ふら「やってみたい」「きれい」等の発言があり,授業にも生かすことができた。HPでの作品公開し保護者ふら「本当に嬉しい」といった声があった。 ■校分ケ本後の校内への周知や課題をけ今後も協議を続ける必要がある。	B+	・教材研究の時間の確保の評価も上がってきている。 ・小さなことの積み重ねが大切。工夫をしながら地道な努力をしていると思う。まだ課題はあるものの,少しずつその成果が出ている。これだけ数値が上がっているので,評価できる。 ・コロナ禍でICTを使うことが学校運営に反映された。 ・80%に届いたということに驚いている。それだけ学校の努力があったのだと思う。A評価にしてもいいとは思うが,他にも進展しなければいけない項目もあるのでB+でよい。	【ねらい】子どもに向き合う時間,自分自身を高める時間の確保と一人一人の力が生かせる職場づくりを行う。 【目標】 ①教職員一人一人がワークライフバランスを意識した働き方を実践し,空き時間や教材研究時間の確保とともに,業務の平準化を進める。 ②チームワークの良い教職員集団づくりをすることによって,働きやすく安心・安全な職場環境を実現する。 ③本校・分校が協働し,各校の教育活動の交流による質の向上と業務の効率化を図る。